

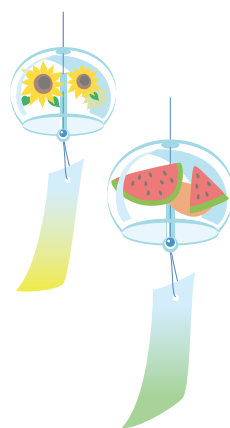
センターだより



大分県パラスポーツ大会 (2ページに関連記事を掲載)

目次

- 就任挨拶 1
- 第21回大分県パラスポーツ大会 2
- 蛍の交歓会 3～4
- 障害の程度に関係なく楽しめる「モルック」の紹介②(ルールとゲームの進め方編) .. 5
- 自律神経って? 6
- 転入・新規採用職員からのひとこと 7
- 職員の異動 8
- 終了者の状況、別府重度障害者センターYouTubeチャンネル 裏表紙



就任挨拶

別府重度障害者センター所長 大熊 高司

本年4月1日付で、埼玉県所沢市にある国立障害者リハビリテーションセンターから赴任してまいりました大熊と申します。どうぞよろしくお願い致します。

私は、30数年前、厚生省（現・厚生労働省）に入省し、主に厚生労働省本省（霞が関）で、介護保険や生活保護といった、広い意味で福祉関係の部署の制度を担当していました。障害福祉関係では、身体障害者手帳及び療育手帳、障害福祉分野における自治体指導等を担当していました。

また、厚生労働省には全国に地方厚生（支）局がありますが、北海道厚生局、関東信越厚生局及び近畿厚生局で勤務した経験があります。

今回、初めて九州の地で勤務することとなり、首都圏や大阪市、札幌市といった大都会とは異なり、別府という、海が見え、山がある美しい土地に勤務し、居住することになったのは、初めての経験であり、感慨深く感じております。

これまで、このように、いわば、机上で、主に福祉関係の制度に関する業務を数多く行ってきましたが、昨年4月に配属された国立障害者リハビリテーションセンターでの勤務は、頸髄損傷者等の方々に障害者支援施設に入所いただいて、日中、自立訓練（機能訓練）を行うという、正に、実際の現場での勤務でした。24時間体制で、施設を運営し、看護・介護部門、リハビリ訓練部門、SW（ソーシャルワーカー）部門等の職員が連携して利用者に対する支援を行っていました。別府重度障害者センターに異動した現在、この経験も生かして、施設運営全般に取り組んでいきたいと考えています。

さて、別府重度障害者センターは、令和4年に創立70年を迎え、現在は、頸髄損傷者等の方々に対して、理学療法、作業療法、スポーツ訓練、職能訓練等を行う自立訓練（機能訓練）に加えて、就労移行支援として、在宅就労を含む就労を希望する方々に、パソコンを使った技能習得や就労準備に関する支援、実際の職場を想定した模擬職場を活用した支援等を行っています。こうした障害福祉サービスを通じて、頸髄損傷者等の方々が自立した日常生活や社会生活を営むことができるよう、支援していく所存です。

最後に、地域の皆様や関係機関等の皆様のご理解とご支援をお願い申し上げ、就任の挨拶とさせていただきます。



第21回大分県パラスポーツ大会

医務課 運動療法士長 木畑 聡

令和8年5月16日(土)、クラサスドーム大分(大分市)で開催された第21回大分県パラスポーツ大会の陸上競技に3名の利用者が参加しました。昨年度までは大分県障がい者スポーツ大会という名称でしたが、国内における「障がい者スポーツ」から「パラスポーツ」への変更の流れに沿う形で本大会も名称変更となったようです。

大会前にはスポーツ訓練やセレクトティブワークの時間を活用して練習に取り組み、準備をしてきました。参加種目はスラロームとビーンバック投です。競技は障害のクラス・年齢・男女で細かく分かれておりそれぞれのクラスで順位が決まる仕組みです。

10時に競技開始して15時過ぎまでお昼を挟んで各々競技に参加しました。天気にも恵まれたとともに、引率職員や帯同した実習生からたくさんの声援を受け、皆さん実力はしっかり出せたようです。3名ともクラス別で1位となりました。スラロームに参加したYさんは、大会記録更新です。またFさんは、当センターから3回目の出場となり、毎回記録を更新されるなど成長を感じるとともに、大会そのものを楽しんでいる様子も印象的でした。Iさんは私と同年代。スポーツをしているときの生き生きとした姿にはいつも元気をもらっています。

利用者が少ない中、今年は参加者がいるかどうか不安でしたが、積極的に参加していただいた3名の方々に感謝です。スポーツ大会というと少し敷居が高い気もしますが、1日屋外で過ごす体験程度に考えていただけると少し気軽に参加できるのではないのでしょうか。普段入る機会がないような大きな競技場に入ることができたり(国体やラグビーワールドカップの会場にもなりました)、会場外にはキッチンカーも出店しており日常とは違った雰囲気を楽しむこともできますよ。

参加された皆さん、お疲れ様でした。来年もまた、多くの皆さんの参加をお待ちしています。



蛍の交歓会

支援課 生活支援専門職 濱野 清悟

6月4日(木)、竹田市立南部小学校と当センターの交流会、『蛍の交歓会』が行われました。今回は、第60回という大きな節目の開催でした。このタイミングでコロナ禍に落ち着きがみられることなどもあり、久しぶりに南部小学校の皆様を当センターにお迎えする形式で実施することができ、大変うれしく思っています。

交歓会当日はあいにくの雨模様でしたが、南部小学校6年生の皆様24名に加え、校長先生やPTAなど学校関係者の皆様、ロータリークラブ、竹田市教育委員会の皆様等、多くの方々にお越しいただきました。

贈呈式では、南部小学校の児童のみなさんが集めた、たくさんの蛍の入った虫かご二つとお花をいただくとともに、竹田市についての研究発表と合唱をしていただきました。研究発表と合唱、それに児童会長の方からのご挨拶も立派で、参加した当センター利用者、職員も、日々の疲れを一時忘れ、胸がいっぱいになりました。

当センターからは、利用者代表の藤井健人さんが、『皆さんが、今回の交流や活動をとおして、障害者も健常者も関係なく思いやる心を、いっそう育ててくださることを、期待しています』とご挨拶をしました。



モルック大会の様子

昼食後は、体育館でモルック大会が開催されました。児童のみなさんと利用者の混合チームを編成し、障害がある人もない人も楽しめる、当センター独自のルールで実施されました。

どの試合もとても白熱し、笑顔があふれる楽しい時間を過ごすことができました。

いただいた蛍の虫かごをラウンジに設置し、夜間、自由時間に利用者が思い思いに鑑賞しました。蛍が光るところを生で見るとは初めてという利用者もいて、皆、目を輝かせて美しい蛍の光を堪能することができました。



贈っていただいた蛍

蛍の収集や、研究発表の準備、合唱の練習等、大変だったと思います。当センター利用者のために努力してくださった児童の皆様、教職員、PTA、ロータリークラブ、教育委員会の皆様には、改めてお礼を申し上げます。

～蛍の交歓会とは～

蛍の交歓会は、昭和41年に当時の竹田市議会議員 菅八郎氏(故人)と夫人(故人)が夜行列車で上京する際、当時の当センター所長 角田耕一氏(故人)と知り合ったのが機縁となり、菅氏が南部小学校に蛍の寄贈を通じた児童とセンター利用者の交流を勧めたのが始まりです。その後、毎年開催されていましたが、令和元年の新型コロナウイルス流行を機に、安全面を考慮し、南部小学校児童の当センター訪問は実施できていませんでした。そのような中でもオンラインでのリモート交流などで交歓会は継続し、本年60回目を迎えたタイミングで、対面での交歓会を再開するに至りました。



センター玄関先の50周年記念碑

障害の程度に関係なく楽しめる「モルック」の紹介②(ルールとゲームの進め方編)

医務課 運動療法士長 木畑 聡

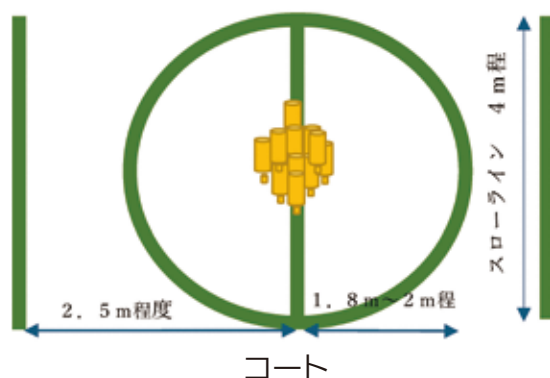
センターだより96号(令和4年1月当センター発行)に～障害の程度に関係なく楽しめる「モルック」～を紹介しました。概要については、当センターホームページからバックナンバーをご覧ください。

今回は、当センターでアレンジしたモルックのルールとゲームの進め方をご紹介します。紙面の関係で、使用する道具の詳細については次回ご紹介する予定です。



●プレイグラウンドの設定

半径1.8m～2mの円を描きます。体育館であれば、バスケットコートのセンターサークルを活用します。5～6mの長さの紐を用意し簡易的にサークルを作ってもよいでしょう。図のように両側にスローラインを引きます。これでプレイグラウンドは完成です。体育館でも、会議室でも実施可能です。



スキttlル

●用具

モルック(投げるもの):ボッチャボールを使用します。

スキttlル(倒すもの):1～12の番号が書かれた12本のペットボトルを逆さに立てて使用します。

●ルール

個人戦・チーム戦いずれも可能です。それぞれのチームのプレイヤーは、スローラインの外側からボールを投げてコートの中に並べられたスキttlルを倒します。投げるときにスローライン左右の移動は可能です。一方のチームが1回投げたら、次はもう一方のチームのプレイヤーが投げます。点数は、スキttlルが1本だけ倒れたときは、倒れたスキttlルに描かれた数字が点数になります。2本以上倒れたときは倒れた本数が点数になります。スキttlルは完全に地面に倒れないと点数になりません。倒れたスキttlルは、点数を確認後その場に立てます。スキttlルがサークルから出てしまった場合はサークルの中心に戻します。各チーム点数を合計していき、50点を先に獲得したチームが勝利です。しかしながら、50点を超過してしまうとペナルティーがつき、点数は25点に減点されます。

参加者によって満点(50点)を変えてもよいでしょう。障害の重たい方たちの場合、30点満点にすることもあります。

自律神経って？

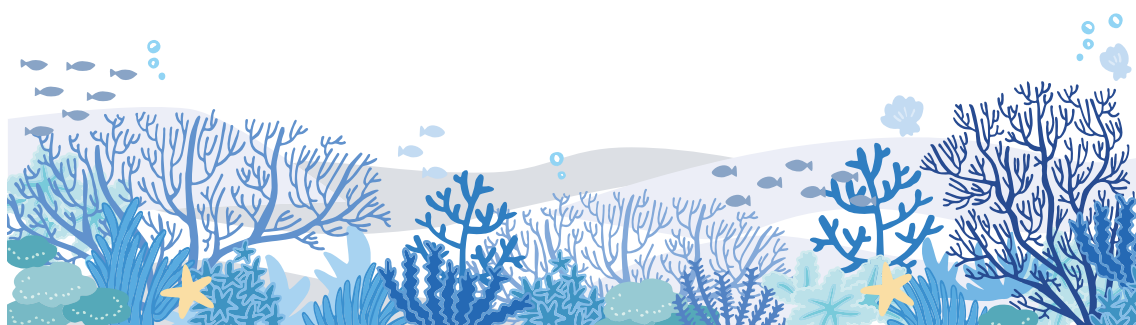
医務課 看護師 阿部 勝也

頸髄損傷の方には「自律神経過反射」といって様々な症状が出ます。その理由は尿の貯留、宿便による直腸内圧の上昇、褥瘡や怪我などの代償反射など原因を除去しないと最高血圧が200mmHg以上にもなり、脳内出血など生命に危険を及ぼす状況になります。強い過反射を起した場合は、しばらく頭痛や発汗が続くこともあります。体の中では強い刺激→交感神経が優位→血管が収縮→血圧が上昇といった流れを辿ります。そもそも自律神経とは自分の意思とは関係なく体を自動調整する神経であり、2種類ある自律神経のうち「交感神経」は戦う(活動モード)、「副交感神経」は休む(回復モード)とえばイメージしやすいと思います。

そこで今回その自律神経に関連したお話を探してきました。晴れの日は何となく気分が良く、雨の日は何となく気が落ち込む…。そう感じている人は結構いますが、何でそう感じるのか不思議じゃありませんか？実は、気分に影響を与える「自律神経」と「気圧」に関係があるようです。晴れた日のほとんどは高気圧(低気圧もあるようです)であり、“空気がたくさんある状態”です。たくさんあるので、空気が外側へと移動して、また上から空気が降りてきます。次から次へと空気が降りて、空気が圧縮されて気温が上がります。気温が上がると相対湿度(天気予報の湿度〇%)も下がり、晴れた日が多くなるのです。そして、空気が多いため酸素の量も多く“エネルギーを燃やす酸素がたくさんある状態”となります。酸素がたくさんあると、体を興奮させる「交感神経」が優位になります。そのため、晴れた日に、人は積極的に活動するようになるそうです。

その逆で、低気圧ではこれと逆の現象が起こります。空気中の酸素が少ないため、酸素が行き渡りにくい状態となるため「副交感神経」が優位になり、体のあちこちに不調が出やすくなります。最近では“気象病”ともいうようです。体調変化、やる気がでない、気圧が下がると体内のヒスタミンも増えます。その結果、アレルギー性鼻炎なども活発になるとされています。血圧低下や全身の血流が滞り、水分や老廃物が排出されにくく“むくみやすくなる”ということです。長時間の飛行機も、低気圧が続いている状態→副交感神経優位なので、むくむんですね。

これからの時期に向け、コントロールできないからこそ、少し知っていてもいいかも…といった話でした。



転入・新規採用職員からのひとこと

阿部 真市(支援課支援課長)

国立障害者リハビリテーションセンターから転任してまいりました。2年ぶり、2度目の別府重度障害者センターでの勤務です。単身赴任なので、食生活が乱れないよう注意していきたいです。利用者の皆さまの支援に少しでも貢献できるよう頑張っていきます。どうぞよろしくお願いいたします。

本村 裕生(庶務課会計係長)

福岡視力障害センターから赴任してきました本村です。17年振りの重度障害者センターでの勤務で、当時の気持ちや気を付けていた点等を思い出しつつ、業務に励んでいきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

山田 瑛紳(庶務課庶務係)

国立障害者リハビリテーションセンターから転入しました。関東以外での生活は初めてなので、色々なことに新鮮さを感じながら過ごしております。別府の温泉も楽しんでいます！入職3年目の若輩者ですが、センター運営を支えられるよう精一杯努めてまいります。よろしくお願いいたします。

親松 洋海(医務課介護福祉士)

国立障害者リハビリテーションセンターから転入してまいりました親松です。伊東重度障害者センターで採用され、国立障害者リハビリテーションセンターでは介護福祉士として、秩父学園では児童指導員として勤めてきました。新たな気持ちで仕事に取り組みます。よろしくお願いいたします。

上田 泰之(支援課生活支援員)

4月から入職しました上田と申します。前職は、大分市内にある医療法人で事務長や医療ソーシャルワーカーとして、勤務していました。これまでの経験を活かし、利用者の皆様に最良の支援を行えるよう努めてまいります。よろしくお願いいたします。

木内 香帆(庶務課栄養係)

4月より新規採用となりました木内です。この春、大学を卒業しました。出身は大阪府で、三重県で育ち、中学生の頃に大分県へ来ました。利用者の皆様や、職員の皆様に支えていただきながら日々頑張っています。お役に立てるように努力してまいりますのでよろしくお願いいたします。

須賀 瑞予(医務課介護福祉士)

5月から新規採用となりました介護福祉士の須賀瑞予と申します。福祉の現場に足を踏み入れて、今年で10年目を迎えます。利用者さんお一人おひとりの気持ちに寄り添う姿勢を大切に、丁寧な支援を心がけていきます。不慣れな部分が多いですが、どうぞよろしくお願いいたします。

職 員 の 異 動

令和8年3月31日付

- | | | |
|-------|-----------------------|--------------------|
| ○定年退職 | 医務課医務課長 | 橋本 通 |
| ○退 職 | 庶務課栄養係長
医務課主任介護福祉士 | 松岡 里佳
曾川 史恵 |
| ○任期満了 | 庶務課庶務課長補佐 | (再任用短時間勤務職員) 西川 浩一 |

令和8年4月1日付

- | | | |
|------|---|--|
| ○転 入 | 所長
支援課支援課長
庶務課会計係長
庶務課庶務係
医務課介護福祉士 | 大熊 高司 (国立障害者リハビリテーションセンターより)
阿部 真市 (国立障害者リハビリテーションセンターより)
本村 裕生 (福岡視力障害センターより)
山田 瑛紳 (国立障害者リハビリテーションセンターより)
親松 洋海 (国立障害者リハビリテーションセンターより) |
| ○転 出 | 支援課主任就労支援専門職
支援課生活支援専門職
庶務課会計係長
医務課作業療法士
医務課介護福祉士 | 中山 修司 (国立障害者リハビリテーションセンターへ)
小原 有賀 (国立障害者リハビリテーションセンターへ)
丸山由紀子 (福岡視力障害センターへ)
佐藤 裕也 (国立障害者リハビリテーションセンターへ)
村上紗弥香 (国立障害者リハビリテーションセンターへ) |

- | | | |
|-------|-------------------------|----------------|
| ○内部異動 | 医務課医務課長
支援課主任生活支援専門職 | 別府 達也
山下 庄二 |
|-------|-------------------------|----------------|

- | | | |
|-------|--------------------|----------------|
| ○新規採用 | 支援課生活支援員
庶務課栄養係 | 上田 泰之
木内 香帆 |
|-------|--------------------|----------------|

令和8年4月7日付

- | | | |
|-------|----------|-------|
| ○内部異動 | 医務課副看護師長 | 後藤 裕子 |
|-------|----------|-------|

令和8年5月1日付

- | | | |
|-------|----------|-------|
| ○新規採用 | 医務課介護福祉士 | 須賀 瑞予 |
|-------|----------|-------|

終了者の状況

(令和8年1月1日～令和8年6月30日)

復帰形態	家庭復帰	就職	自営・内職	復職	就労移行支援	就労支援施設・能開校	他施設	進学復学	その他	計
人数	6	1	0	0	0	0	2	0	0	9
比率(%)	67	11	0	0	0	0	22	0	0	100

別府重度障害者センターYouTubeチャンネル

別府重度障害者センターを紹介する動画を公開中です。併せて、令和3年度と6年度にオンデマンドで開催した頸損リハ研修会動画も一部公開しています。ぜひ、ご覧ください！



X (旧Twitter) も行っています。
イベントやお役立ち情報を配信中！

🔍 別府重度



役立つ情報満載！
HPもご覧下さい

別府重度

🔍 検索

<https://www.rehab.go.jp/beppu/>



電話 (0977) 21-0182 (利用相談) FAX (0977) 21-2794